

地域おこし協力隊活動報告書

活動団体	一般社団法人アソビシロ
役職	地域おこし協力隊
氏名	山本 昇平
着任日	令和 7 年 4 月 1 日

活動月	令和 8 年 2 月（着任 1 1 ヶ月目）
主な活動	1. 釣り体験事業の実施（2 回目） 2. 釣り環境調査（fishing like club 田中氏） 3. 養蜂活動（分蜂に向けた巣箱の制作・設置） 4. ソナレの森（ツリーハウス）改修作業

1. 釣り体験事業の実施（2 回目）

番所鼻自然公園にて、自然体験プログラムとして釣り体験事業を実施した。

- 実施日：2 月 11 日
- 参加人数：11 名

参加者に対して釣りの基本的な方法や安全管理について説明を行った後、実際に海辺で釣り体験を行った。

海の自然環境の中で魚を釣る体験を通じて、地域の海の魅力を体感してもらう機会となり、参加者からも好評を得ることができた。また、体験プログラムとして実施する中で、必要な備品や運営方法、適切な体験時間などについて検証を行い、今後の事業化に向けた課題整理を行った。



地域おこし協力隊活動報告書

2. 釣り環境調査 (fishing like club 田中氏)

釣り体験事業の充実を目的として、屋久島で釣り体験事業を行っている fishing like club 田中氏の指導のもと、番所鼻自然公園周辺の釣り環境について調査を行った。

現地で実際に釣りを行いながら、釣れる魚種や釣りポイント、潮の状況、初心者向け体験としての適性などについてアドバイスを受けた。

専門的な視点から番所鼻の海の特徴を確認することで、安全で魅力ある体験プログラムづくりに向けた知見を得ることができた。



3. 養蜂活動(分蜂に向けた巣箱の制作・設置)

養蜂活動の一環として、ミツバチの**分蜂(ぶんぼう)**を受け入れるための巣箱を手作りで制作し、番所鼻自然公園内に設置した。

分蜂とは、ミツバチの群れが増えた際に新しい群れが巣を離れて移動する現象であり、その群れを新しい巣箱へ迎え入れることで養蜂が始まる。今回の取り組みでは、分蜂してきたミツバチが定着できるよう、木材を用いて巣箱を制作し、設置場所の環境(風通し・日当たり・周辺植生など)を考慮しながら公園内へ設置した。

今回の活動を通じて、ミツバチの生態や自然環境との関係について理解を深めるとともに、公園内の自然環境を活かした新たな取り組みの可能性を探ることができた。今後は分蜂の状況を観察しながら、ミツバチの定着や養蜂の継続的な管理について学びを深めていく予定である。



4. ソナレの森(ツリーハウス)改修作業

番所鼻自然公園内にある宿泊施設「ソナレの森(ツリーハウス)」の利用環境向上を目的として改修作業を行った。

室内の使い勝手を改善するため、新たに棚を制作・設置し、調理器具や備品などを整理できる収納スペースを確保した。これにより、これまで分散していた備品の管理がしやすくなり、利用者が滞在中に使いやすい環境を整えることができた。

また、棚の設置によって室内の空間が整理され、見栄えの面でも改善が見られた。今後も利用者の視点に立った設備改善を進め、ツリーハウスでの宿泊体験の満足度向上を図っていく。

